

## 《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

\* 科目 No. 2918

## 科目概要記入欄

1. 開設大学名	島根県立大学		科目開講 キャンパス	浜田キャンパス		
2. 科目名	正式科目名	環境保全論			クラス名	
	副題				配当年次	1, 2
	旧科目名					
	学問分野	番号	43	名称	環境	
サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群		
3. 担当教員名	北尾 邦伸					
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	秋（集中）		
6. 開講期間 曜日・時間	2021年2月15日（月）～2021年2月18日（木）集中講義 月～木曜日 9:00～18:00					
個別開講日	1回目 2/15	2回目 2/16	3回目 2/17	4回目 2/18	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /	10回目 /	11回目 /	12回目 /
	13回目 /	14回目 /	15回目 /	16回目 /	試験日	/
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」（ ） ②. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 （総授業定員）	5 人 （ 人）		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>本講義では、循環と共生にもとづく持続可能な社会とはなにか、また、いかなるプロセスを経て可能となるかを多面的に論じる。それらは、地域生態系および気候・地球システムの保全に関するものであり、多自然型川づくり（生命系の河川の復元と新たな治水）であり、「環境と健康」の住まいづくりであり、生きられる風景・景観の保全と創造である。また、農林漁業の復権につながる自然エネルギーと生物資材（「太陽と緑」）にもとづく経済・経済価値、そして「エコノミーとエコロジー」論にも及ぶ。</p> <p>人間-環境系における自然を、「大地としての自然、富としての自然、風景としての自然」という三つの層をもつもの、そして人間がその全体性において生きている場、すなわち生存と富と美との統一的な実現をはかる場である」（花崎皋平）との捉え方が基底に座っている講義としたい。「自然保護思想」の授業で講じた自然と人間のあらたな関係の構築についての思想が、「環境保全」の自然科学的認識・知見とどのように通じ合っていて、また、どの程度「環境保全」の実践的領域（技術、政策、デザイン等）で現実のものとなりつつあるのか、といった点にも意を注いで講じたい。</p> <p>【到達目標】人間-環境系での自然の「保全」および自然への「順応」、に関する知識や概念を習得し、自然と文化の通態性・重ね方・編集の仕方、文化生態系や「循環と共生」、について自らの見識をもって自由に論じあえるようになることを目標としたい。</p>					

<p>10. 科目内容・授業計画</p>	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 イントロ：授業の全体的な進め方と流れおよび「環境保全論」へのわたしの遍歴</p> <p>第2回 用語としての「環境」：ドイツ語の Umwelt と Umgebung と Milieu 環境的自然の科学的でシステム論的な認識：システム（「内部」構成要素・関係構造・機能）・境界・「外部」環境；細胞システムと環境、身体システムと環境、生態系システムと環境、地球システムと環境 システムの恒常性、「境界」の範囲・規模やその質的性格・機能について そして一方向性の進化の「過程」と環境変化</p> <p>第3回 コンフリクト（葛藤）・ジレンマ・トレードオフ関係をともなった地球規模での環境破壊・環境劣化の現実</p> <p>第4回 気候変動（温度・雨・風・海流）に関連する「地球システム」について</p> <p>第5回 生態系と生命活動について：生産者・消費者・分解者 食物連鎖 窒素循環・炭素循環 代謝・動的平衡のメカニズム 遺伝・世代更新 レジリエンス、擬態、シンビオーシス（共生）・共進化（動植物と微生物の共生関係、生物進化の過程での葉緑体とミトコンドリア）などなど</p> <p>第6回 「感性的・身体感覺的・内なる自然」と「外界の環境的自然」：風水（藏風得水）の地を選択しての「みやこ」造り 藤原京、平城京、平安京 「遣り水」が施され森に囲まれたみやこ・京都 「なつかしい未来へ」の都市設計 生きられる景観 [樋口忠彦『日本の景観—ふるさとの原型』]</p> <p>第7回 庭園・作庭：西洋庭園と日本庭園 代償景観としての庭 自然の見立て 自然のやわらげ方や引き込み方（借景、遣り水） 作庭（石をたてる、石を組む）の心（「石のことは石に聞け」）での“主体-主体”関係 たのしみと美、やすらぎ</p> <p>第8回 河川の再自然化：生きている川、「川にもっと自由を」の思想に沿ってのコンクリート河川工学・工法（自然の封じ込め）からの脱却 「封水」の防災から「避水」「遊水」による減災をも組み込んだ防水・防災事業</p> <p>第9回 海辺、川辺、水辺、山辺のリデザイン バッファゾーンとしての里山の再生やビオトープづくり ビオトープは連なっている（「真珠の首かざり」）</p> <p>第10回 これからの住宅建築：ゼロエミッション住宅 パッシブソーラーハウス 第三の皮膚（「呼吸する境界」）生物系資材 建築生物学</p> <p>第11回 自然エネルギー：自然エネルギー利用の特徴 熱と仕事、熱力学、電子・電気・発電、燃料電池のメカニズム 局地的で不安定な自然エネルギーによる電力を用いての水の電気分解、水素形態での貯蔵 地下資源エネルギー依存への批判 原子力（原子核破壊）利用批判 [室田武『エネルギーとエントロピーの経済学』]</p> <p>第12回 低炭素社会・水素社会へ：循環型社会形成推進基本法の意義と限界 あらためて「循環と共生」を論じる</p> <p>第13回 フィジオ・クラシー（秩序・管理、自然が生み出す「生産」）の社会・経済学の再構築 現代の主流経済学批判 「太陽と緑」による低エントロピー資源・自由エネルギーの生産・再生産 [ハンス・イムラー『経済学は自然をどうとらえてきたか』、N. G. レーゲン『エントロピー法則と経済過程』、マルチネス・アリエ『エコロジー経済学』]</p> <p>第14回 農林漁業の復権：生態系サービス（ファンドとしての自然からの供給サービス）、自然を保全・ケアし耕す（そして供給サービスを引き出す）サービス産業としての農林業 生物系素材の使用拡大と生物・生命系“生産”のミミクリー（擬態）に向かう“工業”過程（植物の光合成による有機物生成は、高エネルギー投入での高圧・高温状態下での化学工場生産とは違う、常温・常圧下で酵素をもちいての生物生命系の化学反応・物質の合成・分解によるもの） 350mの木造高層ビル 培養ミドリムシでのジェット機燃料セルロースナノファイバーの自動車車体などなど</p> <p>第15回 まとめ：リアル・エコノミーへ そして新たなコモンズ論へ [北尾邦伸「森への自省的回帰」（『環境と健康』誌所収）、北尾邦伸「市民社会論としてのコモンズ論へ」（井上真『コモンズ論の挑戦』所収）]</p> <p>【テキスト】</p> <p>北尾邦伸『森林社会デザイン学序説』の主要な収録論文・資料を授業当日配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>北尾邦伸『森林社会デザイン学序説』。ただし品切れのため（インターネットでの中古品は購入可能）</p> <p>玉野井芳郎『エコノミーとエコロジー』、オギュスタン・ベルク『風土学序説—文化をふたたび自然に、自然をふたたび文化に』</p>						
<p>11. 試験・評価方法</p>	<p>出席状態 40%、数回の中間ミニレポート 30%、最終総括レポート 30%</p>						
<p>12. 別途負担費用</p>	<p></p>						
<p>13. その他特記事項</p>	<p>現地に身を置き、感性と構想力を豊かにして、環境保全に取り組んでもらいたい。</p>						
<p>14. サテライト科目の社会人受講について</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="450 1984 1145 2013">科目等履修生（単位付与）として受け入れ</td> <td data-bbox="1152 1984 1182 2013">可</td> <td data-bbox="1310 1984 1340 2013">否</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 2022 1145 2042">聴講生（単位認定不要）として受け入れ</td> <td data-bbox="1152 2022 1182 2042">可</td> <td data-bbox="1310 2022 1340 2042">否</td> </tr> </table>	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否
科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否					
聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否					